

キャンプに向かう途中の山道で辺り一面に竹が生えている場所が目にとまった。どうしてこんなに竹が生えているのか父に尋ねると、「最近、高齢化が進んだせいもあって山の手入れをする人が少ないからね。竹林ばかりになると山の保水力が下がって、崩れやすくなるからよくないんだよ。」

と教えてくれた。私は自分の住む地域の山林が荒れていることを不快に感じ、どうすれば山の手入れができるのかインターネットで調べてみた。

調べていくうちに「森林環境税」というキーワードが目にとまった。これまでに、消費税や所得税という言葉は耳にしたことがあったが、森林に関する税金があることは知らなかった。次に森林について調べてみると「やまぐち森林づくり県民税」という税金もあることが分かった。山口県に森林に関する税金があることに驚いた。私は自分の住んでいる山口県の税金に興味をもち、もっと調べてみたいと思った。

やまぐち森林づくり県民税とは、豊かな森林を次の世代に受け継ぐための税金で、山口県民一人当たり年間五百円を払い、その集まったお金で山や森をきれいに整備する。具体的には、木と木の間にある木を切ることで、太陽の光が葉に届いて成長を促すことができ、かつ成長することで根が強く張って、土砂災害を防ぐことができる。近年、国内には伐採しないと危ない巨木が多く存在している。突然、巨木が倒れて人や車を押しつぶしたというニュースを目にしたことがある。それらの巨木を伐採し、新しい木の苗を植えることで、二酸化炭素が削減され、持続可能な社会に繋がるのではないだろうか。

次に森林環境税について調べてみた。森林環境税は、気候変動と増加傾向にある山林災害に対処することを目的に、今年度から始まった国税で、一人年額千円が徴収され、その金額が国から地方自治体に森林環境譲与税として譲与される仕組みになっている。

また、元々復興特別税として、二〇一四年からの十年間、住民税に上乗せされていたものが、今年から森林環境税に置き換わった形になっているため、実際の国民の負担は今までと変わらないが、このことを知らない人が多いのではないかと感じた。

やまぐち森林づくり県民税と森林環境税をそれぞれ有効に使い、山口県も日本全国も安心して持続的に暮らせる場所にしていきたい。

そのためには、目的や使い道があまり知られていない2つの税金について、SNSなどで積極的に情報発信を行い、県民にも国民にもより広く知ってもらうことが必要だと感じた。校内放送や学校新聞で税金の話を取り上げることは、私にもできる情報発信だと思う。

税を知って、有効に使って、安心安全な豊かな社会が維持されることを心から願って。